このプロジェクトは劣化した森林生態系の回復と、持続的な森林管理の普及を目指します

中国
四川省山岳地における森林生態系回復プロジェクト
現地からのお便り（2024 年 7 月～2025 年 4 月）

2025 年 5 月
コンサベーション・インターナショナル

© CI

１．森林再生と持続的な管理

1-1.「四川省山岳地における森林生態系回復プロジェクト」がスタート

およそ 1 年間の準備期間を経て、2024 年 7 月にダイキンとのパートナーシップ事業“空気をはぐくむ森”プロジェクト」第二期が開始し、7 月 15 日には主要関係者を招いてオープニングセレモニーを開催しました。このプロジェクトの目的は、洪雅県の劣化した森林生態系を回復することで、それにより地域の人々の生活にも恩恵が期待されます。

森林保全事業には現地政府やコミュニティとの連携が肝要で、第一期（2014-2024 年）を通じて、政府関係者との良好な関係性が築かれていることが、本プロジェクトの大きな基盤となっています。また、準備期間には対象となる四川省洪雅県の関係者や地域コミュニティとの対話や、事業実施可能性調査などを行い、活動の基盤を整えました。

7 月 15 日のセレモニーでは、CI 中国と洪雅県森林管理局（Hongya Forest Farm）間で MoU を締結し、今後 5 年間の森林生態系の回復と持続的な森林管理に関して全面的に協力していくことを約束しました。セレモニーには国家林業草原局、四川省林業草原局、 眉山市林業局、およびダイキン本社、ダイキン中国から来賓が参加し、セレモニー後は森林再生の候補地や対象地周辺のコミュニティを視察しました。

1-2. ダイキンとのパートナーシップ事例を国連のイベントで共有（写真 4）

2004 年 9 月、CI 中国は四川省林業草原局 から招待を受け、国連森林フォーラム主催の研修プログラムでプレゼンテーションを行いました。研修には全国 21 の森林局から 40 名の研修生が参加し、CI 中国は国際企業とのパートナーシップ事例として、2019 年から始まった洪雅県との協力関係から、ダイキンとのパートナーシップ形成に至るまでの経験を共有しました。特にダイキンのプロジェクトは 10 年間あるため、長期的に森林回復／保全にコミットできることが大きな特徴です。こうした事例が共有されることで、今後同様のパートナーシップがより多く展開されていくことが望まれます。

1-3. 洪雅県森林管理局において 89,500 本の植林を実施

2024 年 12 月から 2025 年 4 月にかけて、洪雅県森林管理局と協力して、新しい森林再生方法のパイロット事業として、2 つのサイト計 34ha に 89,500 本の植林を行いました。特にそのうち 11ha は「体験林」として今後様々な場面で活用が見込まれています。

これまでの森林再生では単一種を植林してきたのですが、今回の森林再生では広葉樹と針葉樹を組み合わせ、計 7 種類の在来種や希少種を植林しました。こうすることで森林再生のプロセスがより多様化し、地域の生態系機能が一層高まることが期待されます。

今回の森林再生のパイロットでは、科学的な知見も取り入れながら様々な在来種を組み合わせが試されました。例えば、楨楠とサッサフラスを組み合わせでは最高品質の材木の産出を目指し、木荷と スギと 中国シダの組み合わせは生産林となるほか、火災予防の役割が期待されます。中国のチューリップツリーとして知られるシナユリノキと広葉杉の組み合わせは、生産林や森林生態系の機能に加えて、美しい景観を創り出すことが特徴です。

CI 中国と洪雅県森林管理局は、「体験林」に遊歩道を設置し、新しい植林サイト各所に森林再生の事業内容を紹介するポスターを展示しています。

２． 生物多様性

2-1. Longyingtan 湿地公園における自然教育プログラムの強化

洪雅県にある Longyingtan 湿地公園には野鳥が多く生息し、市民の憩いの場であると同時に、自然や鳥を楽しみに訪れる観光客も増えてきました。プロジェクトでは、野鳥パトロールや野鳥の救助活動に使う備品の貸与や、冬に訪れる数千羽の渡り鳥が休める場所の設置、公共の望遠鏡の補修など資金的支援を行うほか、観察される鳥の種類や、鳥の生息に必要な自然環境についてのポスター作成を支援しました（写真 8, 9）。

３． 生計向上

3-1. 有機廃棄物処理の先進地へのスタディーツアー（写真 10）

复兴村は四川省南西部山岳地域の入り口に位置する少数民族の村で、近年は美しい自然景観と夏でも冷涼な気候により成都や近隣都市から農村滞在型の観光客が多く訪れています。しかし、急激な観光客の増加は自然資源の破損やごみ問題を招き、観光発展と自然保全の両立が喫緊の課題となってきました。そこでプロジェクトは、2024 年 10 月、复兴村の関係者と洪雅県森林局のスタッフを対象として、有機廃棄物対策の先進地へ視察するスタディーツアーを開催しました。四川省ピ県は、村内各家庭から発生する有機廃棄物を集めてコンポスト化するシステムや、村に人口湿地を設置して有機廃棄物から発生する水の浄化に取り組んでおり、ピ県の取り組みの复兴村への応用を今後検討していく予定です。

3-2. 1. リサイクルビンの設計と复兴村への設置

視察の後、プロジェクトチームは洪雅県森林局と复兴村のステークホルダーと一緒に、 村の有機廃棄物リサイクルシステムの考案を行いました。その一環で、复兴村に 6 つのリサイクルビ

ンの設置を行うことが決定し、そのリサイクルビンのデザインはジャイアントパンダ国立公園の協力や現地少数民族の秦腔の民族文化の要素を取り入れて、地域に親しみやすく、観光客にも働きかけるものに決定しました（写真 11）。このリサイクルビンは次の観光シーズンが来る前の 2025 年 7 月までに复兴村各所に設置予定で、この取り組みが今後复兴村や周辺地域の食料廃棄物による土壌汚染の問題の解決を進めていくことが期待されます。

４． その他

4-1. ダイキン中国チームとの連携事業

当プロジェクトと連携する形で、ダイキン中国の有志がプロジェクト対象地域内の荒廃地において植林活動を進めており、2024 年 12 月には新たに 0.67ha の植林を行いました。これにより、ダイキン中国が植林を行った土地は計 2ha に広がりました（写真 12）。今後もダイキン中国による連携活動は継続される予定です。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。

活動写真

1. オープニングセレモニー の様子© CI by Li Hui

2. MoU を締結© CI by Li Hui

3. ダイキンチームの植林地訪問 © CI by Li Hui

4. CI スタッフがセミナーで講演 © CI by Tan Feichuan

5. 植林のための苗木を運ぶ様子 © CI by Luo Xingbi

6. 植林の準備を進める様子© CI by Miao Jinyling

7. ダイキン中国チームが「体験林」を訪

8. Longyintan 湿地公園で冬鳥について協議

9. 観察された夜行性のゴイサギ© CI